

北陸情報通信協議会（HICC）イノベーション部会活動報告

加賀市においてIoTに最適なWi-Fi規格「IEEE802.11ah」北陸初の実証実験を実施

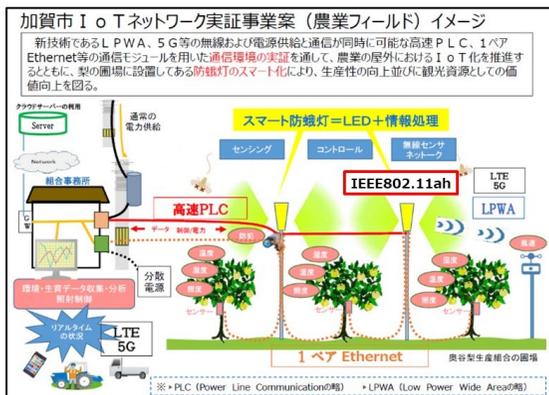
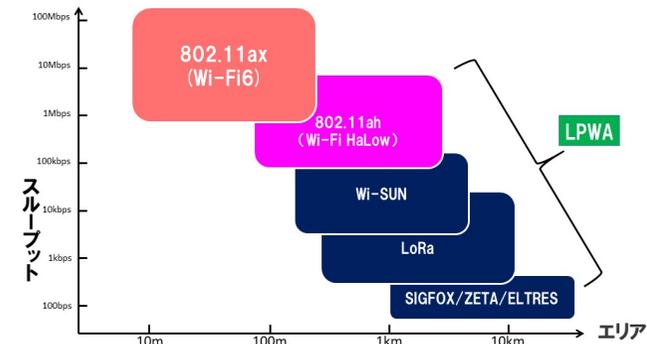
令和元年度、イノベーション部会では、「IEEE802.11ah（802.11ah）」の活用に向けて検討を進めてきました。

802.11ah（Wi-Fi HaLow™）は、920MHz帯の周波数を利用する通信手段のひとつで、特にIoTの通信システムとして様々な分野で活用が期待される、新しいWi-Fi規格です。

920MHz帯を利用した通信システム（LPWA※）は国内でも既に活用されていますが、802.11ahは、「Wi-Fiの伝送距離が拡大」「端末・アクセスポイント・クラウドまでエンドエンドでユーザが自由にネットワーク構築可能」「フルオープン・IPベースのWi-Fiファミリー」「数Mbpsクラスのスループット」という特徴を持つことから、より多様なユースケースへの適用を実現し、インダストリーやホーム、オフィス等の様々な領域で、社会的課題解決に向けた新たな手段を提供できる規格になると期待がされています。



Wi-Fi HaLow方式の位置づけ



【実証実験のイメージ】



【視察される宮元市長、丹部会長、小林会長の様子】

802.11ah推進協議会（会長：小林 忠男、以下、協議会）は、令和元年5月に総務省関東総合通信局から実験試験局の免許を取得し、「11ah」の国内利用に向け、実験試験局を利用して伝搬特性や干渉評価等の実証実験を行っており、イノベーション部会では協議会及びNTT西日本北陸事業部等と連携し3月25日から26日まで加賀市奥谷梨生産組合共同選果場において実証実験を行いました。

当日は、協議会から小林忠男会長、鷹取泰司運営員、無線LANビジネス推進連絡会から北條博史会長、イノベーション部会から丹康雄（JAIST）部会長、大西祥浩（JAIST）主査、藤田尚宏（NTT西日本）WG構成員が参加するとともに加賀市の宮元陸市長も視察されました。

視察された宮元陸市長からは、活用のメリットに関し「5Gの補完として活用の可能性がある。」、「機器の値段が安い。」、「Wi-Fi規格であり、使い安い。（これまでWi-Fiで活用してきたアプリがそのまま使える）」とコメントされ、今後の街中での監視カメラ、教育分野、介護見守り分野での活用に関心を示されました。

今回は、葉が落ちた裸木の状態で梨園における伝搬実験でしたが、今後、6月頃には葉が生い茂った状態での実験に取り組み比較検証を行うこととしています。

イノベーション部会では、引き続き802.11ahの活用に向けて検討を行うとともに、IoTを取り巻く最新の各種通信環境の動向把握に努め、会員から要望を踏まえ検討等に取り組みます。